東日本大震災から７年９か月

津島市立神守中学校長　小 林 秋 良

あの未曽有の大震災から７年９か月がたちました。そして、この神守の地から、バス２台総勢１２５名を災害支援ボランティアとして大船渡へ送り出してから丸７年がたちました。私はあのボランティアの実施から、東北の復興をこの目でしっかり見届け、子ども達にその状況を知らせるのが私の務めであると考え、毎年東北を訪れるようになりました。しかし、皆さんもご存知のように、思うように復興が進んでいないのも現実です。１０日の朝礼では、そんな現状も踏まえ、約８年たとうとしている東北の様子をスライドで子ども達に話しました。

＜東日本大震災から７年９か月（一部抜粋）＞

平成２３年３月に発生した東北地方太平洋沖地震は、大規模な地震災害であるため大震災と呼ばれるようになりました。

石巻市立大川小学校は、多くの児童・教師が犠牲となりました。その悲劇を繰り返さないために、多くの見学者が訪れています。

大川小の校舎は残すことになりました。しかし、周りの民家は再建されていません。廃墟の街となってしまいました。

３年前に陸前高田市を訪れた時は、パイプラインのような太いパイプが山まで延び、山の土を平地まで運んでいました。

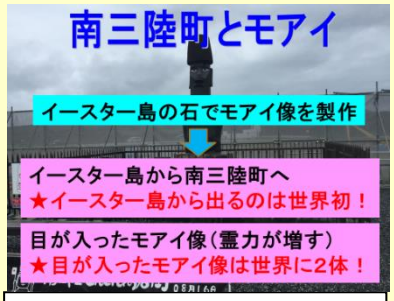
１年前に陸前高田市を訪れた時は、土地のかさ上げ工事は終わっていました。重機が新しい土地を整地していました。

高台となった新しい土地には、大きなスーパーができていました。新しい市役所の建設予定地は、そのすぐ近くと聞きました。

南三陸町の防災庁舎を３年前に訪れた時は、建物まで行くことができました。たくさんの人が建物の前で手を合わせていました。

１年前に南三陸町を訪れた時は、近くに行くことはできなくなっていました。写真のように、遠くから眺め、手を合わせました。

防災庁舎の周りは、公園になるそうです。人が近づいても危なくないように、腐食した鉄骨を塗装する等、工事が進んでいます。



旧商店街にあったモアイ像は、新商店街に移設されていました。「未来に生きる」象徴として町を見守り続けることでしょう。

大船渡駅前に、新しい建物が完成していました。防災観光交流センターや地域の物産の販売所が入っていました。

大船渡市社会福祉協議会の前の写真です。当時はここがボランティアの集合場所でした。今は倉庫として活用されています。

この写真は、震災８か月後の一般の人のボランティア活動の様子です。この日は、１日約６時間、側溝の土上げ作業でした。

平成２３年１１月１９日の神守中学校震災ボランティア活動の様子です。河川敷の野球場の整備をしました。

奇跡の１本松に代表される「希望」。モアイ像に代表される「未来」。今の希望が未来に届くよう、私たちができることを考えよう。

私の願いは、いざとなった時、生徒が率先して活動できることです。まだまだ防災教育の入口ではありますが、少しずつ積み上げていこうと思います。